

科目名 (英)	解剖学Ⅱ Anatomy Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	王子 由佳理
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	後期
曜日・時限							

【授業の学習内容】

解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。
 解剖学Ⅱでは呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の基本構造や特徴について学習する。
 呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系では、それぞれに属する器官の位置、基本的な構造、分泌物など、神経系は、中枢神経系(脳・脊髄)と末梢神経系(脊髄神経・脳神経)に分け、基本的な構造、中枢神経から末梢神経への流れ、神経の走行など、感覚器系では、各感覚器の構造・特徴を中心に、それぞれの感覚の伝わり方を学ぶ。
 授業は①過去の国家試験出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となってくる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸とし、進めていく。

王子

実務実績 鍼灸院での勤務、付属治療院での診察から治療までの業務に従事
 医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

正常な状態の身体の構造や特徴を説明できる。

《具体的な目標》

- ①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。 ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。
- ③呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌器の基本構造を理解し説明できる。
- ④内分泌系は消化器、泌尿生殖器系など多岐にわたり関連するため系統立てて理解し説明できる。
- ⑤体表から神経の走行を考えることができる。

授業計画・内容

1回目	鼻腔、副鼻腔、喉頭の構造・特徴を説明できる。
2回目	声帯、気管、気管支、肺、胸膜の構造・特徴を説明できる。
3回目	胸膜、縦隔、消化器系総論、口腔の構造・特徴を説明できる。
4回目	舌、唾液腺、歯の構造・特徴を説明できる。
5回目	咽頭、食道、胃の構造・特徴を説明できる。
6回目	胃、小腸の構造・特徴を説明できる。
7回目	小腸、大腸の構造・特徴を説明できる。
8回目	肝臓の構造・特徴を説明できる。
9回目	胆嚢、膵臓の構造・特徴を説明できる。
10回目	腹膜、泌尿器系腎臓の構造・特徴を説明できる。
11回目	腎臓、尿管の構造・特徴を説明できる。
12回目	尿管、膀胱の構造・特徴を説明できる。
13回目	膀胱、男性生殖器の構造・特徴を説明できる。
14回目	男性生殖器の構造・特徴を説明できる。
15回目	女性生殖器の構造・特徴を説明できる。
準備学習 時間外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。 骨格、筋などの構造をイメージできるよう模写し、覚えること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社
 参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社
 授業プリント(A3)を配布します。

科目名 (英)	解剖学Ⅱ Anatomy Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	王子 由佳理
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	後期
曜日・時限							

【授業の学習内容】

解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。
 解剖学Ⅱでは呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の基本構造や特徴について学習する。
 呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系では、それぞれに属する器官の位置、基本的な構造、分泌物など、神経系は、中枢神経系(脳・脊髄)と末梢神経系(脊髄神経・脳神経)に分け、基本的な構造、中枢神経から末梢神経への流れ、神経の走行など、感覚器系では、各感覚器の構造・特徴を中心に、それぞれの感覚の伝わり方を学ぶ。
 授業は①過去の国家試験出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となってくる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸とし、進めていく。

王子

実務実績 鍼灸院での勤務、付属治療院での診察から治療までの業務に従事
 医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

正常な状態の身体の構造や特徴を説明できる。

《具体的な目標》

- ①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。 ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。
- ③呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌器官の基本構造を理解し説明できる。
- ④内分泌系は消化器、泌尿生殖器系など多岐にわたり関連するため系統立てて理解し説明できる。
- ⑤体表から神経の走行を考えることができる。

授業計画・内容

16回目	女性生殖器の構造・特徴を説明できる。
17回目	女性生殖器、内分泌系の器官の特徴・分泌するホルモンを説明できる。
18回目	内分泌系、神経系(総論、中枢神経と末梢神経)の構造・特徴を説明できる。
19回目	脊髄、延髄の構造・特徴を説明できる。
20回目	延髄、橋、中脳の構造・特徴を説明できる。
21回目	中脳、視床の構造・特徴を説明できる。
22回目	視床下部、大脳の構造・特徴を説明できる。
23回目	大脳の構造・特徴を説明できる。
24回目	脳室、髄膜、脳の血管の構造・特徴を説明できる。
25回目	伝導路の構造・特徴を説明できる。
26回目	伝導路、脳神経Ⅰ～Ⅲの構造・特徴を説明できる。
27回目	脳神経Ⅳ～Ⅵの構造・特徴を説明できる。
28回目	脳神経Ⅶ～Ⅸの構造・特徴を説明できる。
29回目	脳神経Ⅹ～Ⅻの構造・特徴を説明できる。脳神経まとめ。
30回目	脊髄神経総論、デルマトーム、頸神経の構造・特徴を説明できる。

準備学習 事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること
 時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。
 骨格、筋などの構造をイメージできるよう模写し、覚えること。

評価方法 成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。
 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社
 参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社
 授業プリント(A3)を配布します。

科目名 (英)	解剖学Ⅱ Anatomy Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	王子 由佳理
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	後期
曜日・時限							

【授業の学習内容】

解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。
 解剖学Ⅱでは呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の基本構造や特徴について学習する。
 呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系では、それぞれに属する器官の位置、基本的な構造、分泌物など、神経系は、中枢神経系(脳・脊髄)と末梢神経系(脊髄神経・脳神経)に分け、基本的な構造、中枢神経から末梢神経への流れ、神経の走行など、感覚器系では、各感覚器の構造・特徴を中心に、それぞれの感覚の伝わり方を学ぶ。
 授業は①過去の国家試験出題部位 ②解剖学に関連した科目を学ぶ際に必要となってくる知識 ③臨床において必要となる知識 この3つを軸とし、進めていく。
王子
実務実績 鍼灸院での勤務、付属治療院での診察から治療までの業務に従事
 医療系専門学校にて教鞭をとる。
資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

正常な状態の身体の構造や特徴を説明できる。
《具体的な目標》
 ①国家試験出題レベルの問題に答えることができる。 ②解剖学関連科目を学ぶ際に必要な知識を習得できる。
 ③呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌器官の基本構造を理解し説明できる。
 ④内分泌系は消化器、泌尿生殖器系など多岐にわたり関連するため系統立てて理解し説明できる。
 ⑤体表から神経の走行を考えることができる。

授業計画・内容	
31回目	頸神経、腕神経叢の構造・特徴・走行を説明できる。
32回目	腕神経叢の構造・特徴・走行を説明できる。
33回目	腕神経叢、腰神経叢の構造・特徴・走行を説明できる。
34回目	腰神経叢、仙骨神経叢の構造・特徴・走行を説明できる。
35回目	仙骨神経叢の構造・特徴・走行を説明できる。
36回目	胸神経、自律神経概論の構造・特徴・走行を説明できる。
37回目	自律神経の構造・特徴を説明できる。
38回目	視覚器の構造・特徴を説明できる。
39回目	視覚器の構造・特徴を説明できる。
40回目	視覚器・聴覚器の構造・特徴を説明できる。
41回目	聴覚器の構造・特徴を説明できる。
42回目	聴覚器、味覚器、嗅覚器の構造・特徴を説明できる。
43回目	皮膚の構造・特徴を説明できる。
44回目	各胚葉の分化を説明できる。
45回目	後期のまとめ 試験の説明
準備学習 時間外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 授業の始めに前回の範囲の小テストを行いますので、講義の復習が必要になります。 骨格、筋などの構造をイメージできるように模写し、覚えること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 梅澤俊彦他著 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社 授業プリント(A3)を配布します。	